



ダム建設で消える天若の農家／昭和61年／個人蔵

# 井上辰夫展

—— キャンパスに描いたあの日の風景 ——

平成29年7月15日[土] ▶ 9月10日[日]

【開館時間】 午前9時～午後5時（入館は午後4時30分）

【休館日】 毎週火・水曜日（7/20～8/31 水曜日のみ）

【入館料】 大人200円／高・大学生150円／小・中学生100円

※20名以上の団体は2割引 ※身体障がい者手帳・療育手帳・精神障がい者保険福祉手帳・戦傷病者手帳を持つ方とその介護者は半額 ※南丹市内在住・在校の小・中学生は無料

## 南丹市日吉町郷土資料館

〒629-0334 京都府南丹市日吉町天若登地谷7 / TEL:0771-68-0069 / FAX: 0771-72-1130 / <http://www.be.city.nantan.kyoto.jp/hiyoshi-shiryokan/>

【交通案内】京都縦貫自動車道「園部IC」左折、府道19号園部平屋線を直進、南丹市日吉町内「日吉大橋」を右折、「スチールの森京都」内。  
※公共交通を利用してお越しになれる方は、バス等の時間に制約がありますのでご注意ください。



# 井上辰夫展 キャンバスに描いた あの日の風景

日吉ダム建設に伴い、中・天若地区に居住していた154世帯499人がふるさとに別れを告げてから今年で30年を迎えます。当館では、消えゆく風景をキャンバスに描き続けた画家・井上辰夫氏の作品展を開催いたします。

かつて船井郡瑞穂町（現在の京丹波町）に住んでいた井上氏は、ダム建設で水没する中・天若を知り、昭和60年から3年間、消えゆく風景を描き続けました。自らを「正念場」と位置づけ、夏の暑い日も冬の雪が舞う寒い日も天若に通い続け、作品に取り組みました。民家を中心に四季の移ろいや人々の姿を丁寧に織り込んだ作品を通して、湖底に消えた情景の中、人々の営みがあったことをふりかえるきっかけになれば幸いです。また、井上氏没後20年を迎え、絵のモチーフとしていた「花」や「兎」などの作品も加え井上氏の軌跡を紹介します。



天若で作品製作に取り組む井上辰夫氏



井上辰夫色紙集／昭和63年／個人蔵



日吉ダム建設で消える天若の学舎（旧天若保育所）／昭和61年／当館蔵



冬枯れの山並みと民家（世木林）／平成元年／個人蔵

## もう一つの 井上辰夫 の世界

井上氏は兎と花を特に好み画面に描きました。家の周囲や近くの畑に何種類もの花を育て画材とし、毎年、ぼたんの咲く季節には、出身地である福島県須賀川市のぼたん園に訪れました。また、作品の中には兎が登場することが多く、そのなかには陸上選手であった自身を兎に模した作品も見られます。今にも絵から飛び出してきそうな兎の愛らしさに井上氏の人柄が偲ばれます。



兎のマラソン／昭和32年／個人蔵



コスモス／平成4年／個人蔵



アロエとカンナと兎／平成元年／個人蔵